

〔正賞 社会文化部門〕

- せいらい・ゆういち
1. 氏名 青来 有一
  2. 年齢 64歳 ※2023年11月3日時点
  3. 肩書 作家
  4. 住所 長崎市



【受賞理由】

長崎市に生まれ育ち、市役所の職員を定年まで勤めつつ、原爆や隠れキリシタンなど「土地の記憶」をテーマに小説を書き続けてきた。デビュー作の「ジェロニモの十字架」が文学界新人賞、その後も「聖水」で芥川賞、「爆心」で伊藤整文学賞と谷崎潤一郎賞をダブル受賞している。

直接の被爆体験がない戦後世代ながら、原爆とキリシタン弾圧という長崎の歴史に刻まれた出来事を重ね合わせ、従来の「原爆文学」とは異なる作品世界を構築していった。長崎原爆資料館長在職中に発表した「フェイクコメディ」は、当時のトランプ米大統領がお忍びで資料館を訪れる奇想天外な内容で、作風の広がりも見せている。被爆者の高齢化が進む中、原爆の記憶を継承する創作活動の意義は重みを増している。

【主な著書と受賞歴】

1995年	「ジェロニモの十字架」で第80回文学界新人賞受賞
2001年	「聖水」（文芸春秋）で第124回芥川賞受賞
2002年	「月夜見の島」（文芸春秋）
2003年	「眼球の毛」（講談社）
2007年	「爆心」（文芸春秋、2006年）で伊藤整文学賞、谷崎潤一郎賞受賞
2007年	「てれんぱれん」（文芸春秋）
2012年	「夢の栓」（幻戯書房）
2015年	「人間のしわざ」（集英社）
2015年	「悲しみと無のあいだ」（文芸春秋）
2017年	「小指が燃える」（文芸春秋）
2019年	「フェイクコメディ」（集英社、電子書籍）